

陳立清（ちん りっせい 1932-2009）

1932年東京に生まれ、小中学・高校時代を千葉県で過ごしたのち上京、1955年早稲田大学商学部を卒業。青年学生時代は、中国留日同学総会の執行委員として機関誌「学生報」の主編、その後旅日華僑青年聯誼会の機関誌「東風」の編集長として在日華僑青年学生の愛国団結運動で活躍した。

1957年より東京華僑総会に勤務し、機関誌「華僑報」の編集長を長く務める一方、61年より2008年まで長期に亘って理事、常務理事を歴任、この間、78年から88年まで理事会副議長、88年から98年まで議長を務め、東京華僑総会の発展、在日華僑の愛国団結事業と中日友好のため力を発揮した。

また、1960年から留日福建同協会の理事を務め、79年から同会の副会長として福建僑胞の愛国愛郷と親睦団結に大きく寄与し、旅日福建同郷懇親会の発展にも貢献した。

東京華僑総会退職後の1975年、協同組合 華僑互助合作社の創設に力を尽くし、以来2008年まで同合作社の常務理事、副理事長、理事長を歴任、また財団法人 東華教育文化交流財団設立以来の評議員でもあった。

2004年12月に発刊された「日本華僑・留学生運動史」の編纂には副主編として力を注いだ。